

2020 7/28

No.2119

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



横浜港の大動脈、横浜ベイブリッジを飲み込まんばかりの巨大な積乱雲。手前にはヨットハーバー。横浜にいよいよ本格的な夏がやってきた。



## contents

視点点描	3
お1人さま限定	
デモクラシーの現場から	4
真夏のダークホース	
経 済	6
「非接触」5Gが救世主か	
ウィズ・コロナ時代の経済展望	
経 済	10
コロナ禍が問う情報判断力	
グラフも「読み方」を知ってこそ	
くらし2020	12
介護職 長続きの3条件	
企業最前線	14
物流施設への開発投資が活況	
目立つ「マルチテナント型」	
アジアの風	16
大手テレビ局放送停止の背景	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

### 事務局だより

◇2020年8月定例講演会  
ユーチューブによるライブ配信で開催  
配信日時 8月5日(水)午後1～2時  
講師は中小企業基盤整備機構  
理事長の豊厚志氏  
演題は「新型コロナウイルス感染症の中小企業への影響」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページ（[www.kanagawa-seikon.jp](http://www.kanagawa-seikon.jp)）に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045（226）2121。

# 視点 点描



## お一人さま限定

て再開した。登校も始まり、恐る「日常」に戻りつつある。

一方で、新型コロナと共存していく上で新しい生活様式が求められ、取材する側にもいくつかの「新しい様式」が加わった。感染拡大を防ぐため、マスク着用や検温の義務付けだけではない。

危惧しているのが、取材の根幹に関わる規制だ。スポーツ取材の現場では、球場に入れるのは記者は1人か2人、インタビューできる選手も1人か2人。決められた場所以外での取材、たとえば球場入りの時や帰りのバスに乗り込む時にひと言ふた言聞く、ぶら下がり、もやめてー。

でも記者は知りたい。あの投手交代は悔しかったのか、しようがないと思っただのか。自分の仮説を直接ぶつきたい、自分だから聞き出せた話を書きたい。そのひと言が、試合を決する場面を読者に伝

える肝となり得るからだ。

それが「新様式」では様変わりした。各社の記者が同じ選手から同じコメントを聞き、似たような内容の原稿を書く。横並びの記事が各新聞に載る異様さ。それはいつか来た道さえ連想させる。

「マスクの購入はお一人さま1点」。品薄のドラッグストアで制限されるのは致し方ない。でも、感染防止を理由に聞くべき取材対象の人数や接触の制限には、安易に同意できない。国民の「知る権利」に影を落としかねないからだ。

怖いのは、端から話を聞きに行こうとしなくなる記者が増えることだ。不都合な事情を抱えた政治家や役所、企業にとっては好都合かもしれない。だが、記者の仕事は話を聞くこと。そこを忘れず、さらなる「新しい様式」を考えねば。

(神奈川新聞社運動部長兼

映像編集部長

佐藤 英仁)

「日本、金メダル量産」「買い替え特需、テレビ品薄」――。半世紀以上ぶりの開催に、国内メディアは今ごろ、東京オリンピック・パラリンピック一色に染まっているはずだった。好景気を前に安倍政権もホクホクだったに違いない。

それが、新型コロナウイルスにより一変した。五輪は延期され、経済活動は大幅に縮小。スポーツ

や文化活動の制限に加え、休校に伴い子どもたちの居場所が狭められてしまった。自粛にステイホームにソーシャル・ディスタンス。これまで考えもしなかった「ルール」に縛られることになった。息苦しい生活を強いられること

数カ月。延期されていたプロ野球が無観客で開幕し、サッカーJリーグもおよそ4カ月の中断を経